

歯科

歯科医師 小野 万記子

＜当科の紹介＞

当科は周術期口腔管理を行う歯科として2019年4月に開設され、2025年で7年目となります。診療体制は、昨年に引き続き、常勤1名、非常勤3名で診療にあたっています。小野とともに水曜日は岡山大学病院医療支援歯科治療部の曾我歯科医師、吉富歯科医師、月火金は近森病院勤務以外にも訪問診療を行っている笠井歯科医師による診察を行っています。

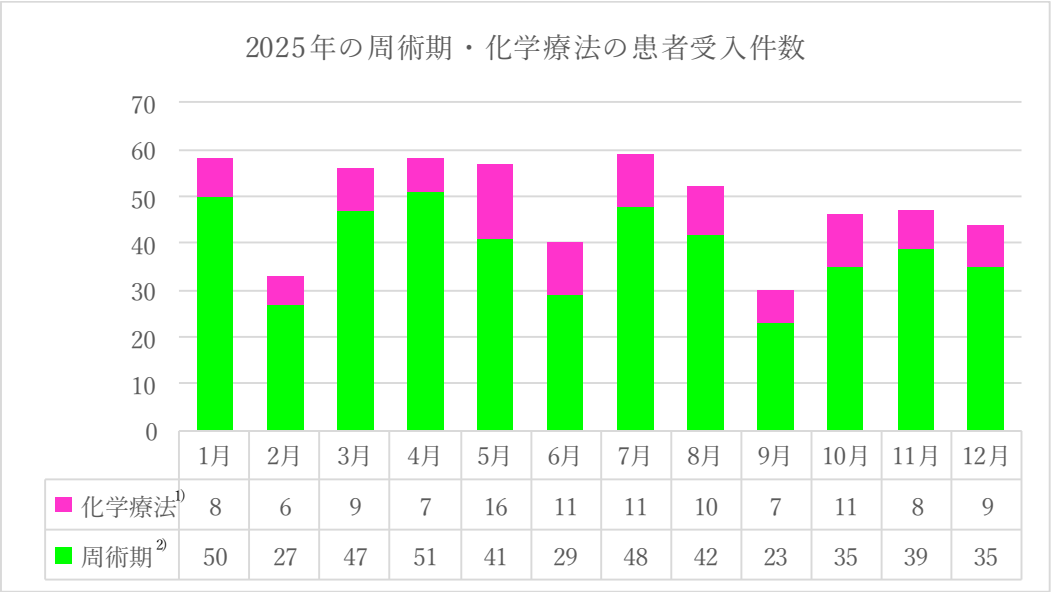
診療の8割は病棟往診となっており、周術期等（術前術後、化学療法中）口腔管理を行っています。外来においては、手術前、化学療法前の患者を診察し、必要に応じ、地域の歯科医院の先生方に依頼し歯科治療を行っていただくことにより、期間的なこともあります。できる範囲で患者の口腔環境を整え、手術、化学療法に臨んでいただいています。そして手術入院中は当院で口腔管理を行い、退院後は引き続きかかりつけ歯科にて口腔管理を継続していただいています。その際、該当患者への処置前抗菌薬投与の情報提供カードも活用しております。また、化学療法中の患者の口腔管理においては、入院中は病室往診にて、外来時には歯科診療室や化学療法センターにて化学療法の副作用である有害事象（口腔粘膜炎等）のフォローアップを当院歯科で行うとともに、歯科治療に関しては地域の歯科医院での治療継続を依頼しています。

また、看護補助者として各病棟に配属された8名の歯科衛生士が病棟の業務を兼務しながら、上記診療のサポートに加え、経管栄養中他セルフケアが困難な入院患者に対する専門的口腔ケアを行い、口腔衛生管理の強化を図っています。

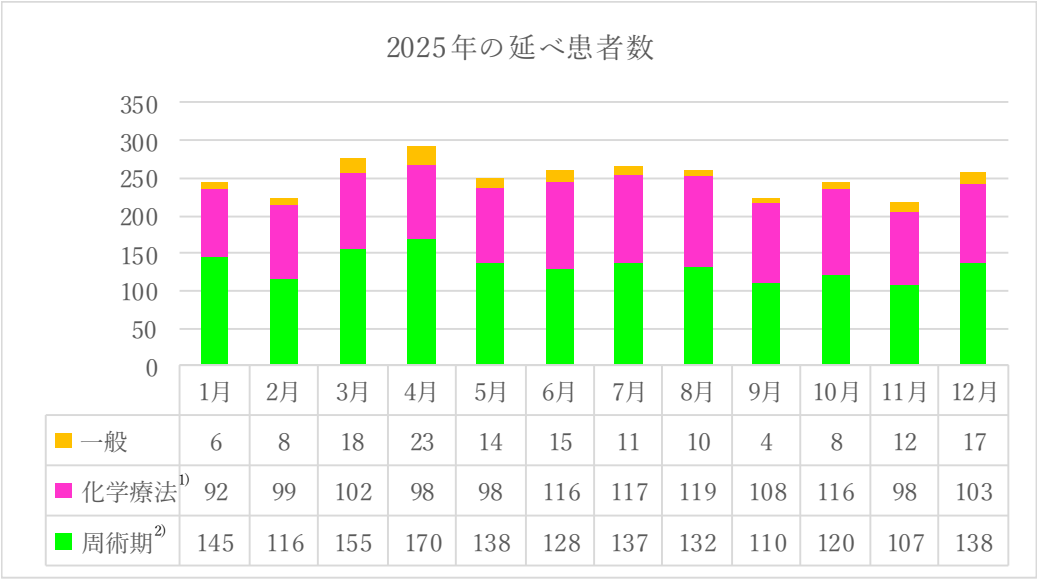
今年度は第60回日本理学療法学会研修大会において、リハビリ・栄養・口腔の一体的推進の好事例として、日本歯科医師会の先生より当院の周術期等口腔管理含め、近森病院の取り組みをご紹介いただきました。また、10月にはパノラマX線撮影装置の入れ替えにより、診断精度向上に貢献しております。

＜診療実績＞

当院歯科が対象とする患者はすべて当院医科からの院内紹介患者となっております。



1) 消化器内科、呼吸器内科、血液内科、乳腺外科からの化学療法中の口腔管理依頼
2) 心臓血管外科・循環器内科の心血管疾患手術、かかりつけ歯科のない方の外科のがん摘出術、および整形外科の人工関節置換術における周術期口腔管理依頼



9割以上は周術期、化学療法の患者の診察ですが、それ以外のグラフ内の一般にあたる入院患者の感染性疾患に対する口腔内精査・口腔衛生管理、ビスフォスフォネート製剤投与前の口腔内精査、入院中の緊急性の高い歯科治療（動揺歯の抜歯、義歯調整等）、応急処置を行っています。一般歯科治療に関しては、急性期病院の特性上、また当科が周術期等の病院医療を支えることに特化した歯科であるため、退院後地域の歯科医院での治療をお願いしています。

以下の表は、過去6年間の延べ患者数、周術期等口腔機能管理計画策定件数（新たに管理を開始した件数）となります。

	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
延べ患者数	3,061	3,573	3,661	3,488	3,251	3,008
周術期等口腔機能管理計画策定件数	564	657	617	672	693	580

<歯科のこれから>

厚生労働省によると2040年頃まで65歳以上の高齢者患者が増加するため、病院歯科の役割として、更なる医科歯科連携強化、周術期口腔機能管理等の推進が重視されており、高齢化や入院患者の合併症リスクに対応するため、チーム医療の一環としての機能が求められています。

当科も2019年にスタートして以来、口腔管理の重要性も認知され、多くの院内紹介がある中、たくさんのスタッフに支えられながら、様々な院内の医療者、患者双方のニーズと、病院と地域の歯科医院との関わりをつなぐ担い手としてこれからも邁進していきます。